

「二宮町総合戦略」に係る アンケート調査結果

平成 30 年 7 月

1. 調査概要

1) 調査目的

本アンケート調査は、本町の取り組みに対する町民の評価を把握する目的で実施するものである。

2) 調査方法

- 調査票は郵送により配布し、返信用封筒による郵送回収を行う。

3) 調査期間

- 平成30年5月1日（火）～平成30年5月18日（金）
※ 但し、本報告書では5月28日（月）到着分まで集計

4) 調査対象及び回収状況

- 対象者：1,000名
平成30年4月13日現在の住民基本台帳から、満18歳以上の男女各世代（10代、20代、30代、40代、50代、60代以上）より、年代ごとの人数を均等に1,000名を無作為抽出。
- 回収数：382票（38.2%）

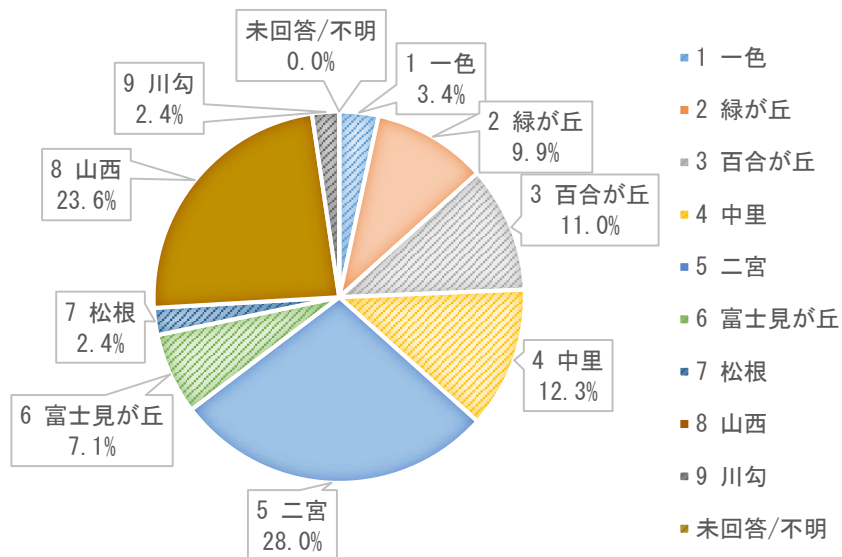
地域	今回調査			平成29年5月実施 (以下、前回調査)		
	人数	回収票	回収率	人数	回収票	回収率
一色	39名	13票	33.3%	28名	11票	39.3%
緑が丘	91名	38票	41.7%	86名	25票	29.1%
百合が丘	120名	42票	35.0%	106名	32票	30.2%
中里	121名	47票	38.8%	131名	48票	36.6%
二宮	282名	107票	37.9%	282名	99票	35.1%
富士見が丘	83名	27票	32.5%	109名	42票	38.5%
松根	14名	9票	64.2%	21名	10票	47.6%
山西	230名	90票	39.1%	221名	87票	39.3%
川匂	20名	9票	45.0%	16名	8票	50.0%
未回答	-	0票	-	-	3票	-
合計	1,000名	382票	38.2%	1,000名	365票	36.5%

- 調査票不到達数：5名（理由：宛名不明）
〈内訳〉 20代 男性：2名（二宮、山西）
40代 男性：1名（山西）
50代 男性：1名（二宮）
60代以上 男性：1名（二宮）

2. 調査結果（概要）

問1 住所

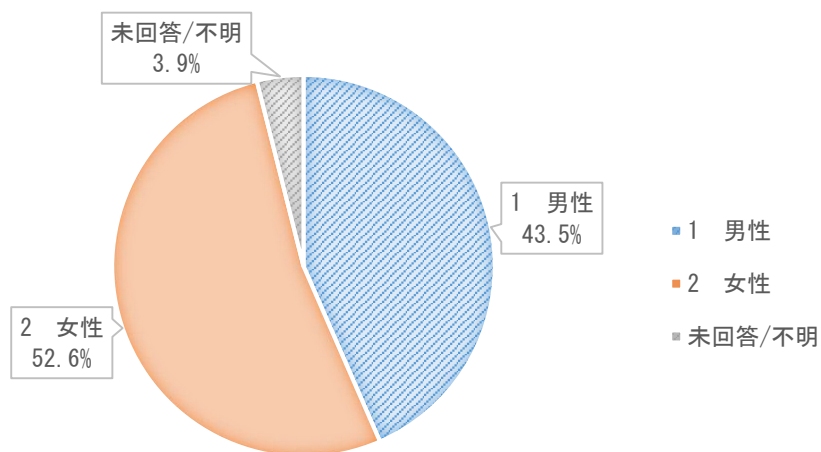
- 回答者の居住地は、調査対象者人数に比例し、二宮が最も多く28.0%、次いで山西の23.6%と続く。



n=382

問2 性別

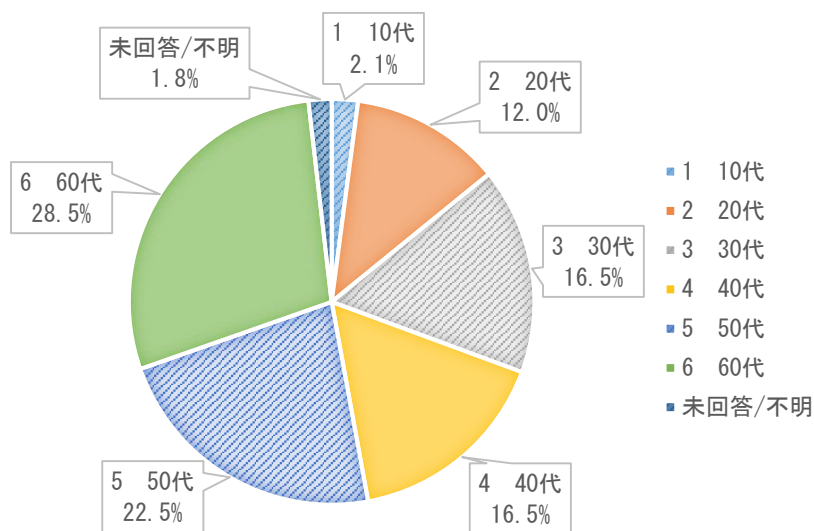
- 回答者の男女比は、女性が52.6%に対し、男性が43.5%であった。



n=382

問3 年齢

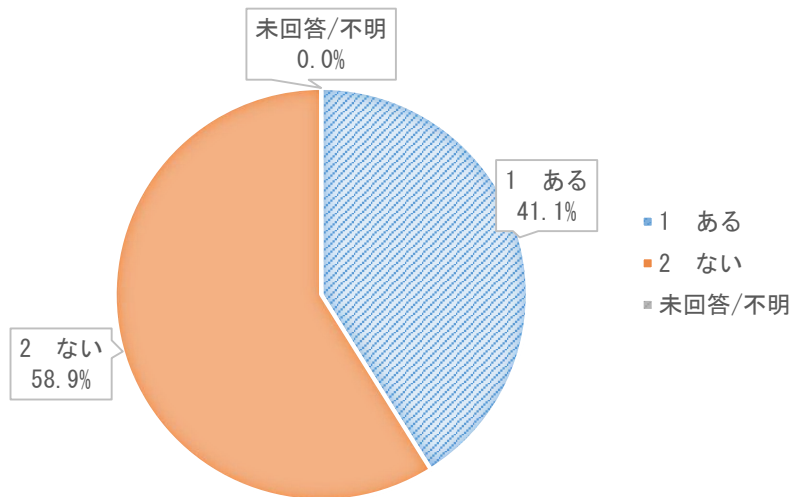
- 60代以上が28.5%と最も多かったのに対し、10代と20代併せて14.1%となり最も少なかった。



n=382

問4 運動習慣について

- 運動習慣の有無について、運動習慣が「ある」と回答した者が41.1%であったのに対し、「ない」と回答した者が58.9%であった。



n=382

【参考】 前回結果との比較

回答	前回結果	増減 (今回結果-前回結果)
運動習慣が「ある」	38.1%	+3.0%
運動習慣が「ない」	60.5%	-1.6%

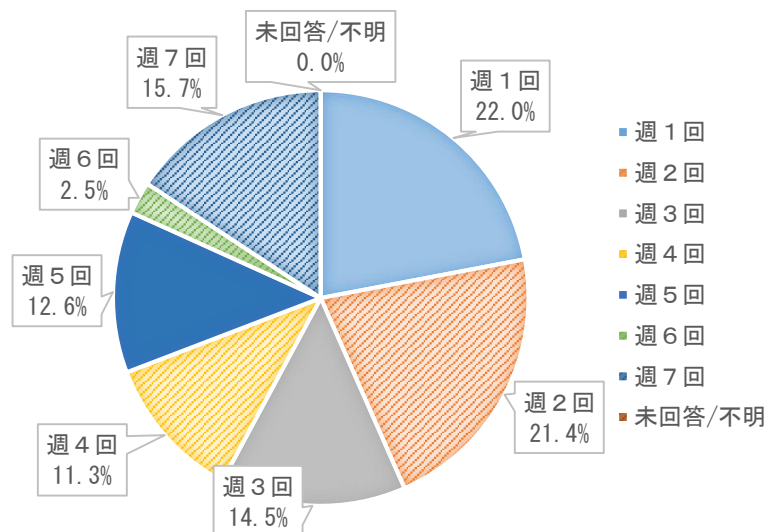
- 年代別に見ると、運動習慣が「ある」と回答した人の割合が最も高かったのは60代以上で、同年代の全回答者の56.9%を占めた。次いで50代が50.0%で続く。一方、運動習慣が「ない」と最も多く回答したのは、10代で87.5%、次いで30代が74.6%で続いた。

運動習慣 年代	今回調査			前回調査		
	「ある」	「ない」	未回答 不明	「ある」	「ない」	未回答 不明
10代	1 (12.5%)	7 (87.5%)	-	-	-	-
20代	15 (32.6%)	31 (67.4%)	-	12 (32.4%)	25 (67.6%)	-
30代	16 (25.4%)	47 (74.6%)	-	19 (27.1%)	49 (70.0%)	2 (2.9%)
40代	18 (28.6%)	45 (71.4%)	-	19 (31.7%)	41 (68.3%)	-
50代	43 (50.0%)	43 (50.0%)	-	32 (38.6%)	51 (61.4%)	-
60代 以上	62 (56.9%)	47 (43.1%)	-	55 (51.4%)	51 (47.7%)	1 (0.9%)
未回答 不明	2	5	-	2	4	2
合 計	157 (41.1%)	225 (58.9%)	-	139 (38.1%)	221 (60.5%)	5 (1.4%)

※ 各年代の数値の下にある()内の割合は、年代ごとの全回答者に占める割合

※ 合計の数値の下にある()内の割合は、全回答者に占める割合

- 運動習慣が「ある」と回答した者の1週間の運動日数について、「週1日」が22.0%と最も多く、次いで「週2日」が21.4%であった。

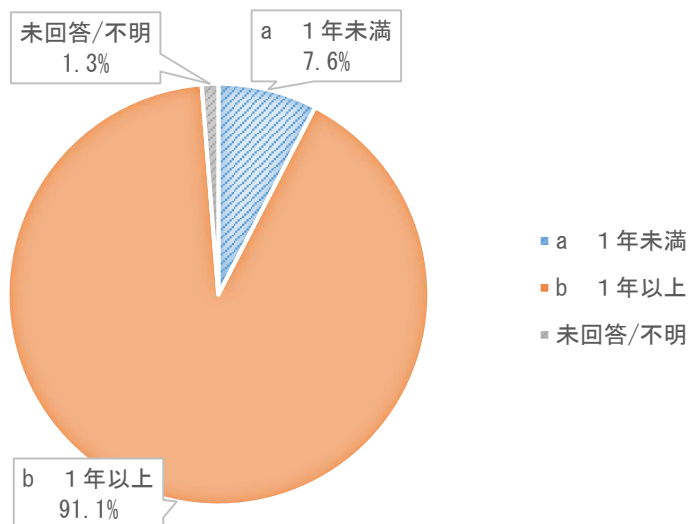


n=159

- ・ 運動習慣が「ある」と回答した者の全体の平均運動時間は、1時間32分であった。

	今回調査	前回調査
週1回	2時間3分	1時間31分
週2回	1時間37分	1時間39分
週3回	1時間30分	1時間25分
週4回	1時間6分	1時間11分
週5回	1時間13分	1時間14分
週6回	1時間37分	1時間10分
週7回	1時間19分	1時間20分
全体平均	1時間32分	1時間27分

- ・ 運動習慣が「ある」と回答した者の運動継続年数は、「1年以上」が91.1%、「1年未満」が7.6%であった。



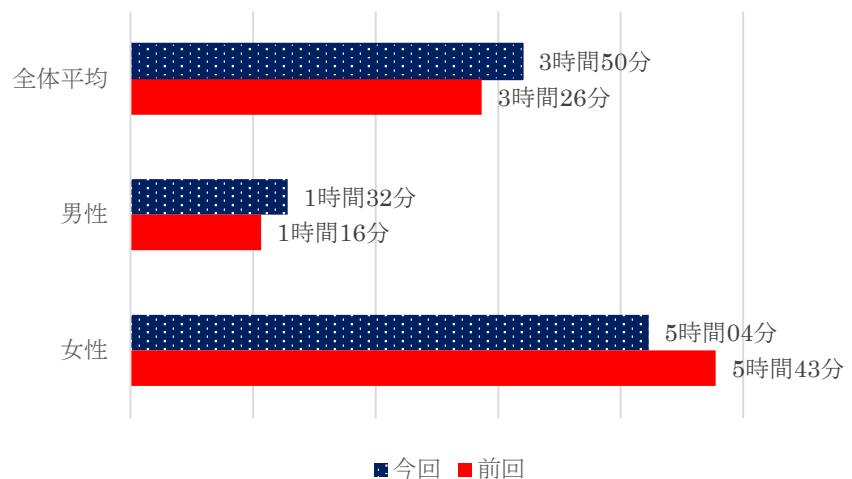
n=159

【参考】 前回結果との比較

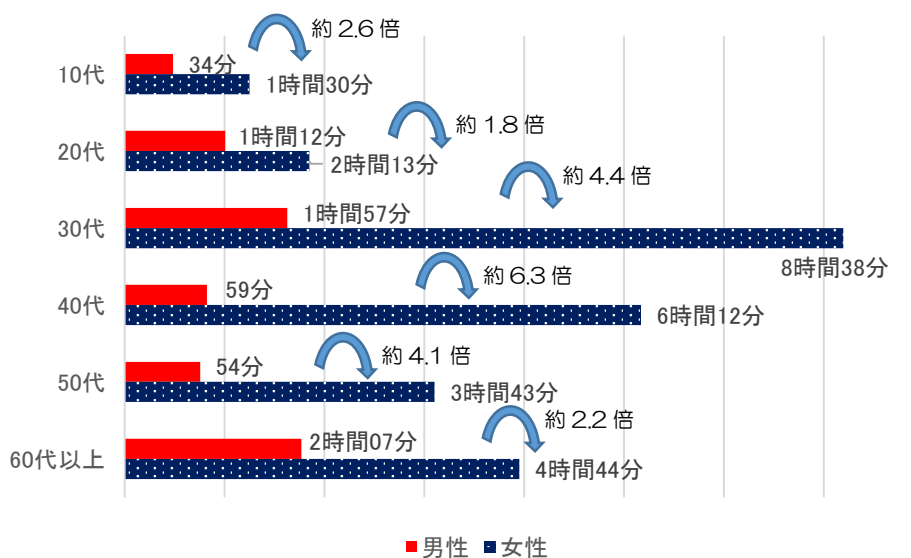
回 答	前回結果	増減 (今回結果-前回結果)
1年未満	12.2%	-4.6%
1年以上	84.9%	+6.2%

問5 子育てと仕事の両立について

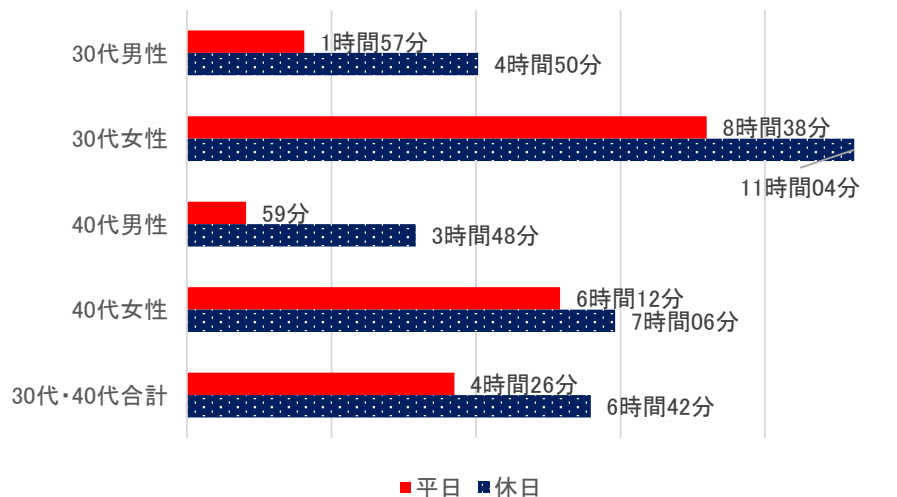
- 1日のうち家事や育児にかかる時間の全体平均は、3時間50分であった（回答者の男女比は、男性が35.0%に対し、女性が65.0%）。
- 男女別に見ると、男性の平均時間が1時間32分、女性の平均時間が5時間4分であった。



- 年代別・男女別に見ると、30代女性が8時間38分と最も長く、次いで、40代女性の6時間12分と、子育て世代の女性が長いことが分かる。一方、最も時間が短いのは、10代男性の34分であった。
- すべての年代において、女性が男性に比べ、約2倍以上長いことが分かる。



- 子育て世代である30代及び40代を男女別及び平日・休日別に見ると、男女ともに平日に比べ、休日に家事や育児にかかる時間の平均が増加している。
- 特に、40代について、平日に比べ、休日の平均時間の増加率が、女性が約1.1倍である一方で、男性は約3.8倍と大きく増加している。



問6 住環境に対する評価について

二宮町の住環境の満足度と重要度について項目ごとに5段階で評価し、その回答の加重平均を算出し、順位づけをした。加重平均を算出する際には、「満足（重要）」を2、「やや満足（やや重要）」を1、「どちらとも言えない」を0、「やや不満（あまり重要ではない）」を-1、「不満（重要ではない）」を-2とし、数字が大きくなるほど評価が高く、数字が小さくなるほど、評価が低いことを表している。

(1) 全体の傾向

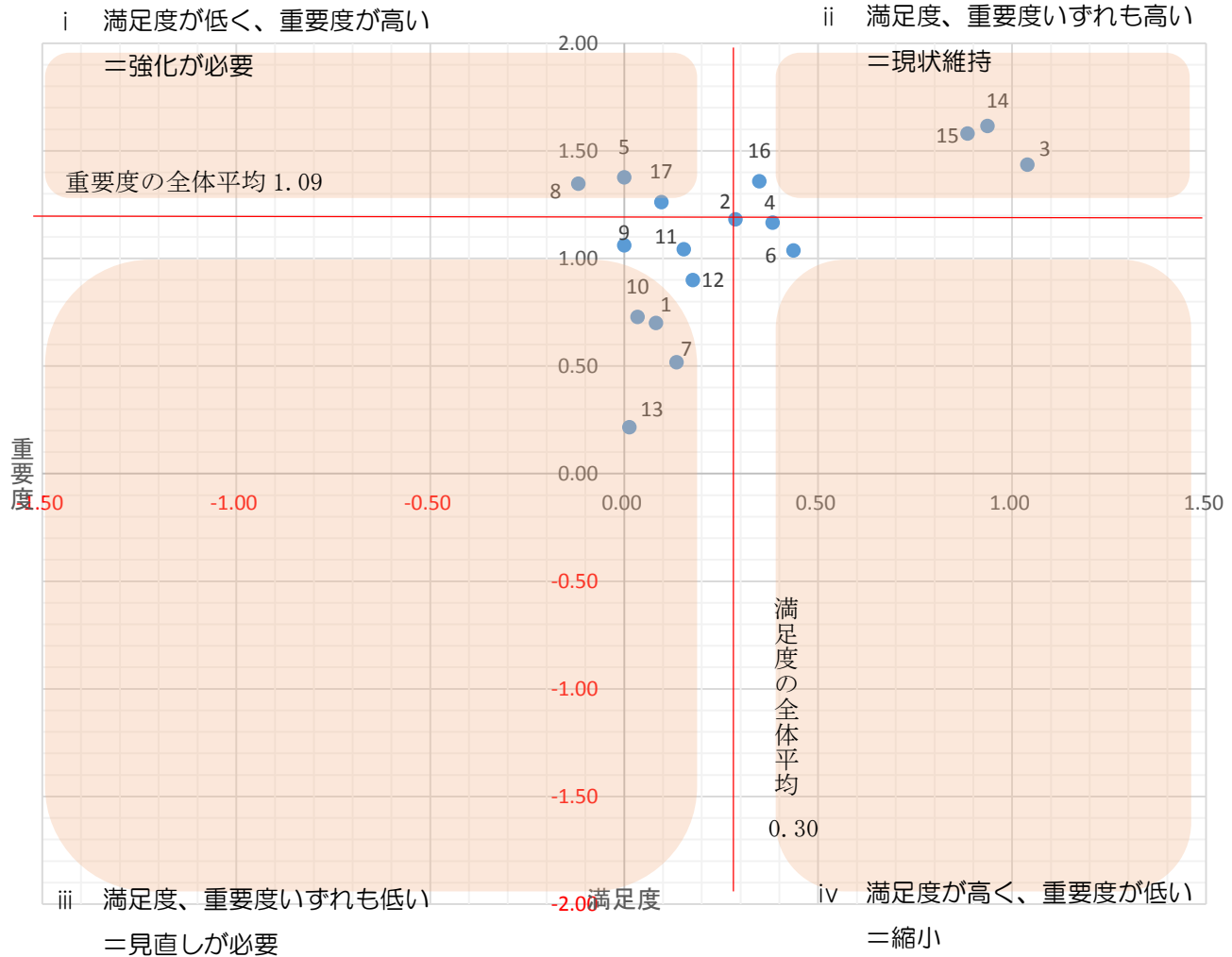
住環境の満足度の加重平均値は、0.30であった。項目ごとの満足度の加重平均値は-0.12~1.04の間で、加重平均値の中央にあたる0周辺を取り囲むように分布している。一方、重要度の加重平均値は、1.09であった。項目ごとの重要度の加重平均値は0.22~1.61の加重平均の中央にあたる0より高い水準の範囲で分布している。加重平均値が0を下回る重要度が低い項目はなかった。

	満足度	重要度
平均	0.30	1.09
最大値	1.04	1.61
最小値	-0.12	0.22

【参考】 前回結果との比較

		今回結果	前回結果	増減 (今回結果-前回結果)
満足度	平均	0.30	0.39	-0.09
	最大値	1.04	1.01	+0.03
	最小値	-0.12	-0.04	-0.08
重要度	平均	1.09	1.15	-0.09
	最大値	1.61	1.64	+0.03
	最小値	0.22	0.44	-0.08

満足度と重要度の関係性



1 都心へのアクセス	2 最寄駅へのアクセス	3 住宅の条件
4 街並みや街の雰囲気	5 買い物の利便性	6 公園・自然環境
7 地域コミュニティ	8 医療・福祉	9 子育て環境
10 保育園の整備状況	11 小中校等の教育環境	12 公共施設
13 文化・芸術活動	14 治安のよさ	15 自然災害の少なさ
16 防災・減災まちづくり	17 道路や下水道等都市基盤	

i 満足度が低く、重要度が高い＝強化が必要

- ・ 買い物の利便性
- ・ 医療・福祉
- ・ 道路や下水道等都市基盤

ii 満足度、重要度いずれも高い＝現状維持

- ・ 住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）
- ・ 治安のよさ
- ・ 自然災害の少なさ

iii 満足度、重要度いずれも低い＝見直しが必要

- ・ 都心へのアクセス
- ・ 地域コミュニティ

・ 保育園の整備状況

・ 文化・芸術活動

iv 満足度が高く、重要度が低い＝縮小

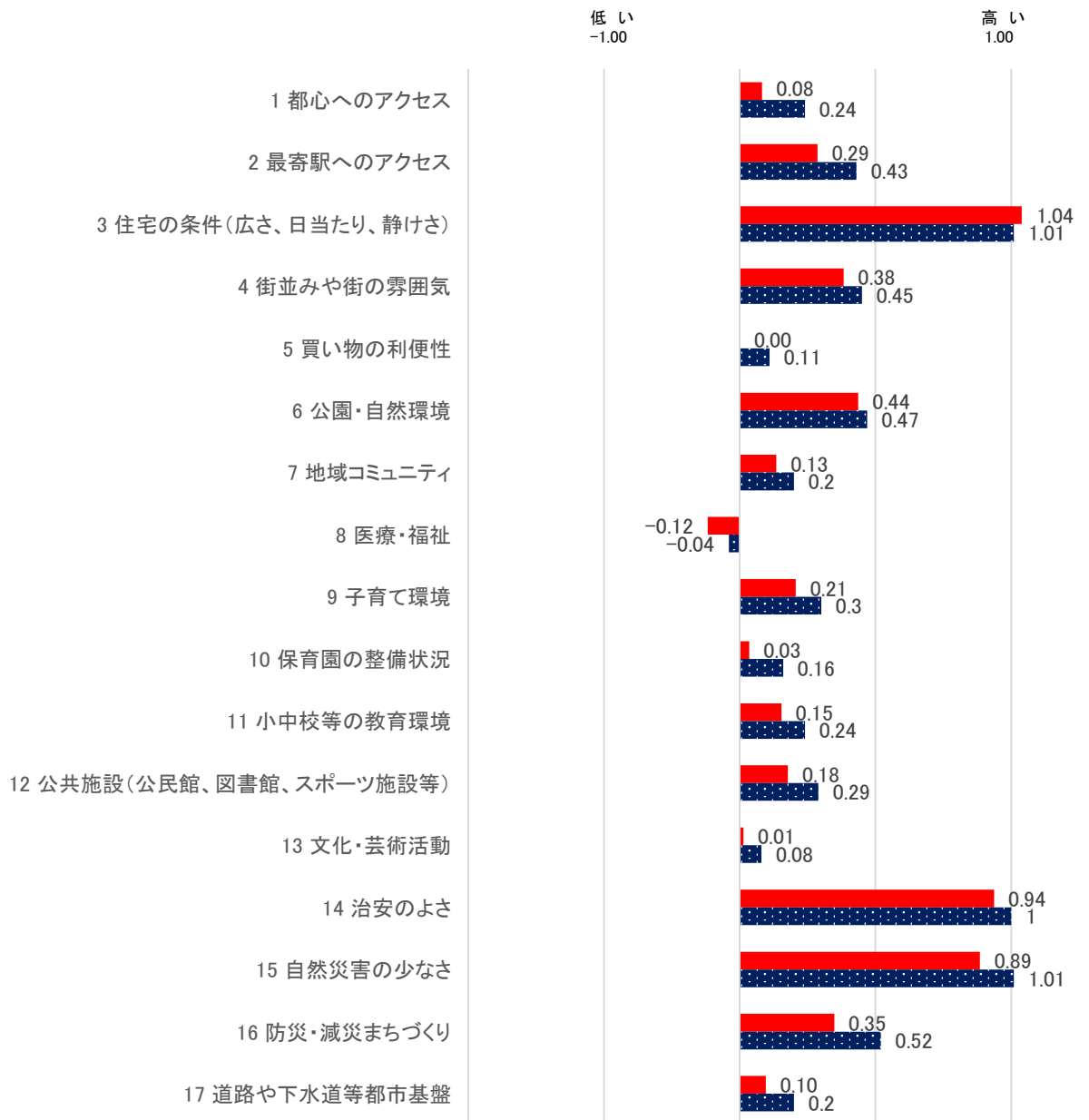
該当なし

(2) 満足度・重要度ランキング

		加重平均値		加重平均値ランキング	
		満足度	重要度	満足度	重要度
1	都心へのアクセス	0.08	0.70	13	15
2	最寄駅へのアクセス	0.29	1.18	7	8
3	住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）	1.04	1.44	1	3
4	街並みや街の雰囲気	0.38	1.17	5	9
5	買い物の利便性	0.00	1.38	16	4
6	公園・自然環境	0.44	1.04	4	12
7	地域コミュニティ	0.13	0.52	11	16
8	医療・福祉	-0.12	1.35	17	6
9	子育て環境	0.21	1.06	8	10
10	保育園の整備状況	0.03	0.73	14	14
11	小中学校等の教育環境	0.15	1.04	10	11
12	公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設等）	0.18	0.90	9	13
13	文化・芸術活動	0.01	0.22	15	17
14	治安のよさ	0.94	1.61	2	1
15	自然災害の少なさ	0.89	1.58	3	2
16	防災・減災まちづくり	0.35	1.36	6	5
17	道路や下水道等都市基盤	0.10	1.26	12	7

① 満足度

- ・ 満足度については、加重平均値が1以上の突出して良い項目が1つだが、全項目の平均値が0.30と、加重平均値の中央にあたる0をやや上回り、全体としては、どの項目も良い評価が得られている。
- ・ 最も満足度が高かったものは、「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）」、次いで「治安のよさ」（0.94）、「自然災害の少なさ」（0.89）である。一方、評価が低かったものは、「医療・福祉」（-0.12）、次いで「買い物の利便性」（0.00）、「文化・芸術活動」（0.01）である。
- ・ 前回調査の項目全般の加重平均値が0.39であったのに対し、今回調査では0.30であったことから、評価は停滞していると言える。
- ・ 項目別に前回調査の結果を比較すると、全体的に評価が低下しており、最も評価が低下したものは、「防災・減災まちづくり」（対前回比：0.17減）であった。



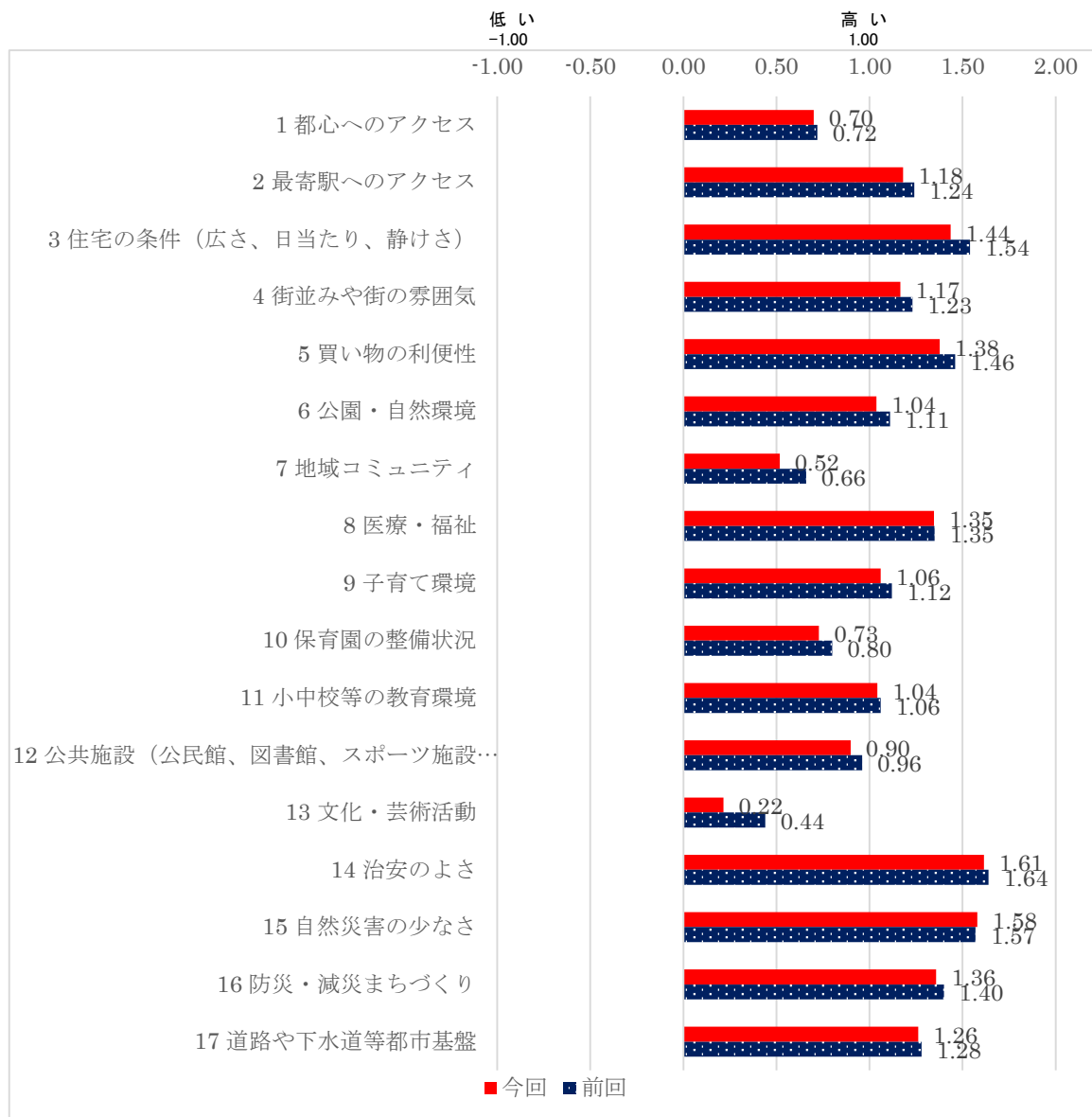
■今回 ■前回

- ・ 年代別に見ると、全項目に対する評価の加重平均値が最も高かったのは10代であったのに対し、最も低かったのは50代であったが、10代以外の年代はほぼ僅差であった。
- ・ 10代と60代以上で比較すると、最も評価が分かれた項目は、「小中校等の教育環境」であった。
- ・ 60代以上よりも10代のほう特に高い評価となった項目は、「小中校等の教育環境」であった。一方、10代よりも60代以上のほうが特に高い評価となったのは、「自然災害の少なさ」、次いで「都心へのアクセス」であった。
- ・ 各年代の最も評価の高い項目は、10代、20代、40代は「治安のよさ」、30代、50代は「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）」、60代以上は「自然災害の少なさ」であった。
- ・ 「医療・福祉」については、10代と60代以上を除いた年代で、いずれも低い評価となった。

		加重平均値						
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	全体
1	都心へのアクセス	0.00	-0.15	-0.03	0.14	0.08	0.29	0.10
2	最寄駅へのアクセス	0.75	0.11	0.38	0.44	0.21	0.20	0.28
3	住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）	1.25	0.93	1.16	0.89	1.03	1.00	1.02
4	街並みや街の雰囲気	1.00	0.30	0.59	0.48	0.27	0.21	0.36
5	買い物の利便性	0.00	-0.06	0.22	0.19	-0.20	-0.07	-0.01
6	公園・自然環境	0.25	0.54	0.35	0.49	0.40	0.45	0.44
7	地域コミュニティ	0.50	0.33	0.11	0.21	-0.02	0.11	0.13
8	医療・福祉	0.13	-0.15	-0.13	-0.19	-0.24	0.05	-0.11
9	子育て環境	0.00	0.33	0.13	0.17	0.23	0.16	0.20
10	保育園の整備状況	-0.13	0.04	-0.10	0.02	0.05	0.11	0.04
11	小中校等の教育環境	1.50	0.33	0.11	0.00	0.09	0.17	0.18
12	公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設等）	0.13	0.00	0.49	0.11	0.00	0.25	0.18
13	文化・芸術活動	0.13	-0.13	0.10	-0.05	0.01	0.27	0.01
14	治安のよさ	1.88	1.07	0.79	0.92	0.90	0.92	0.94
15	自然災害の少なさ	0.63	0.91	0.71	0.76	0.90	1.01	0.88
16	防災・減災まちづくり	1.13	0.54	0.21	0.24	0.34	0.40	0.37
17	道路や下水道等都市基盤	0.00	0.14	0.43	-0.03	-0.16	-0.14	0.37
	全項目平均	0.54	0.30	0.33	0.28	0.23	0.32	0.32

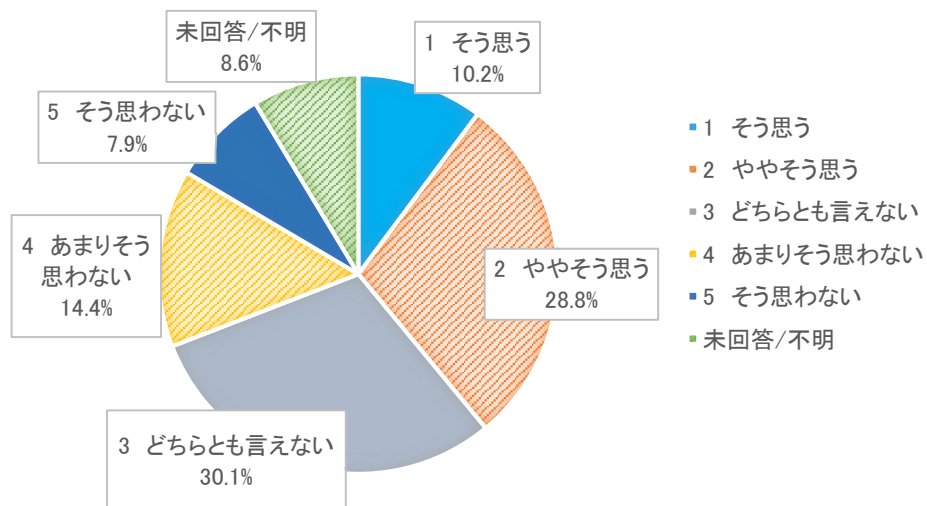
② 重要度

- 重要度については、加重平均値が7割以上の項目で1以上となり、全項目の平均値が1.09と、加重平均値の中央にあたる0を大きく上回り、全体としては、どの項目も重要であるとの評価となった。
- 最も重要度が高かったものは、「治安のよさ」(1.61)、次いで「自然災害の少なさ」(1.58)であった。一方、重要度が低かったものは、「文化・芸術活動」(0.22)、次いで「地域コミュニティ」(0.52)、「都心へのアクセス」(0.70)であった。
- 前回調査の項目全般の加重平均値が1.15であったのに対し、今回調査では1.09とほぼ同水準になっている。
- 項目別に見ると、評価が向上したものは、「自然災害の少なさ」だけで、他の項目は前回よりも加重平均値が減少している。



問7 出産・子育てについて

- 二宮町が、安心して妊娠・出産・子育てできる町であるかという問いに対し、「どちらともいえない」が最も多く、30.1%であった。「そう思う」（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）は39.0%である一方、「そう思わない」（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）は22.3%であった。

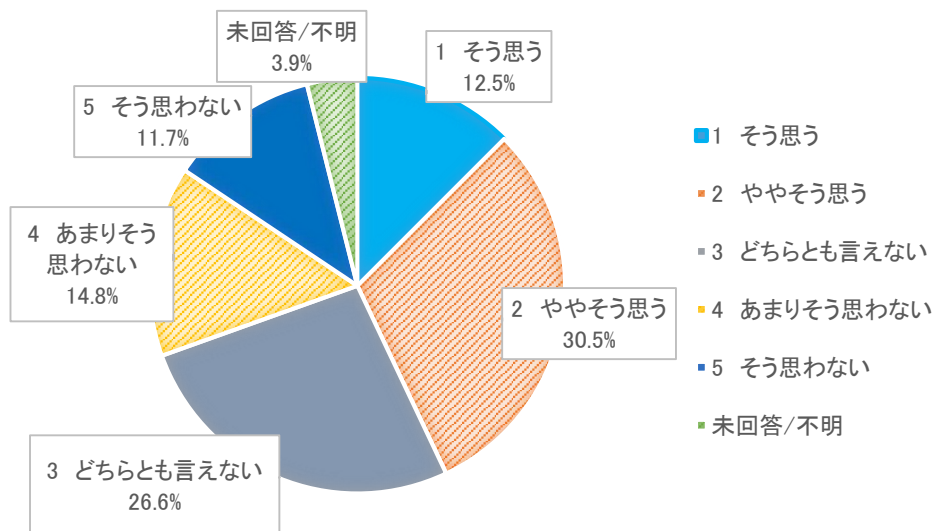


n=382

【参考】前回結果との比較

回答	前回結果	増減 (今回結果-前回結果)
そう思う	9.0%	+1.2%
ややそう思う	32.9%	-4.1%
どちらとも言えない	34.8%	-4.7%
あまりそう思わない	12.3%	+2.1%
そう思わない	5.8%	+2.1%
未回答/不明	5.2%	+3.4%

- 子育て世代である30代及び40代（合計）では、「そう思う」（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）は43.0%、「そう思わない」（「あまりそう思わない」と「そう思わない」と「そう思わない」の合計）は26.5%となった。



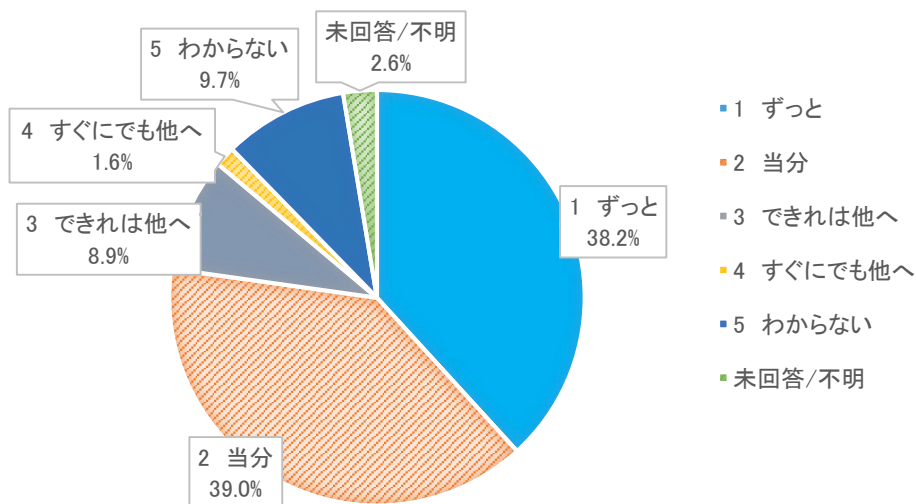
n=64+64=128

【参考】 前回結果との比較

回答	前回結果	増減 (今回結果-前回結果)
そう思う	3.8%	+8.7%
ややそう思う	38.5%	-8.0%
どちらとも言えない	38.5%	-11.9%
あまりそう思わない	8.5%	+6.3%
そう思わない	6.9%	+4.8%
未回答/不明	3.8%	+0.1%

問8 定住意向について

- これからも二宮町に住み続けたいと思うかという問いに対し、「当分住み続けたい」が最も多く、39.0%であった。「ずっと住み続けたい」と「当分住み続けたい」を合算すると、町民の77.2%に定住意向があることが分かる。

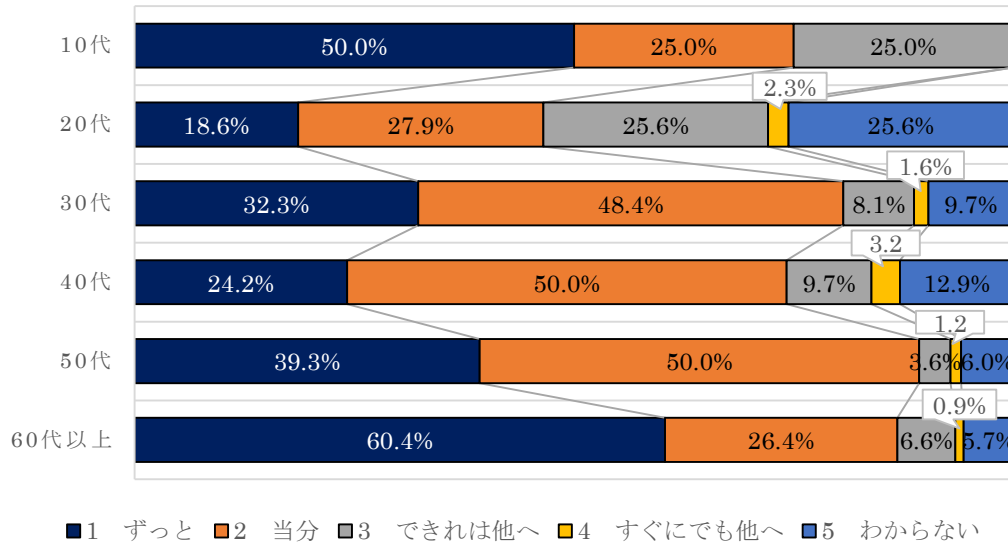


n=382

【参考】 前回結果との比較

回 答	前回結果	増減 (今回結果-前回結果)
ずっと住み続けたい	41.9%	-3.7%
当分住み続けたい	38.6%	+0.4%
できれば他へ移りたい	7.9%	+1.0%
すぐにでも他へ移りたい	1.1%	+0.5%
わからない	8.5%	+1.2%
未回答/不明	1.9%	+0.7%

- 年代別に見ると、定住意向（「ずっと住みたい」と「当分住みたい」を合算）がある人の割合は、50代が最も高く、同年代の全回答者の89.3%となった。一方、転出意向（「できれば他に移りたい」と「すぐにでも他へ移りたい」を合算）がある人の割合は、20代が最も高く同年代の全回答者の27.9%、次いで10代が25.0%であった。



- 男女いずれも定住意向（「ずっと住みたい」と「当分住みたい」を合算）がある人の割合が7割を超えている。
- 男女別に見ると、女性よりも男性のほうが定住意向が高い。

